西日本肥満対策コンソーシアム
2025 年度年報

2026 年 7 月 20 日発行

西日本肥満対策コンソーシアム事務局

１．　代表挨拶

肥満者の割合は年々増え続け、肥満を基盤に発症する健康障害（肥満症）の発症機序もより重層・複雑化しています。このグローバル化の潮流は医療に留まらず社会的にも放置できなくなって来ました。この動向に対処するため、地域における肥満の予防、そして肥満症の治療に特化した学術活動をより活性化することを目的に、西日本肥満研究会が 1993 年に発足しました。

肥満症の成り立ちやその仕組みについては、年を追うごとに理解は深まりつつあります。しかしその治療成果（肥満症の改善、さらにはその継続化）となると、まだ手付かずの状況と言わざるを得ません。なかでも情報化都市型社会の深化に伴い急増する夜型ライフスタイルの蔓延、ジャンク・フードに象徴される食環境の劣悪化等々、これらの生活環境は肥満症診療を根底から阻む要因となるため座視できない事態を招いています。

この現状を打開し、より有効な肥満症診療を展開する目的から、2023 年には「西日本肥満対策コンソーシアム」が発足しました。地域の一般市民を主体に、専門の医療職、地域医療関係者、企業、行政等々が相互に連携するとともに適正な情報を共有し、問題解決への多面的な活動を推進できる共同体を目指しています。この 3 年間は市民啓発を目的とした種々なイベントを地域ごとに開催してきました。しかし的確な肥満情報の共有、肥満症改善策やその維持となると、現在も多くの課題が未解決のまま山積しています。

実は、西日本肥満対策コンソーシアム発足のあと、その余韻の冷めぬ時期に、国際機関や国際学会、そして有名国際誌などは、“BMI だけで病態やその予後を判定するのは不適切”とみなし、次々に BMI 偏重への是正を宣言しました。この BMI への急変革は、一方で実地医家による肥満者への対応に抜き差しならぬ混乱を引き起こしています。また同時に、肥満そのものを根底から見直し、その阻止対策への新たな構築、こういった一連の重要でしかも難解な課題を課すことにもなりました。

市井との連携方式による肥満症診療の重要性を終始発信し続けてきた本コンソーシアムとしては、この肥満学の急変貌により、期せずして時を得た船出ともなりました。この追い風ともいえる動向を重く受け止め、解決すべき課題を的確に共有し、新たな肥満症診療を切り開く場（共同体）となれるよう、社員皆様のご尽力を切に願っています。

西日本肥満対策コンソーシアム
理事長　坂田　利家

２．　年間活動報告

①　一般会員向けに、肥満や肥満症について分かりやすく、具体的に解説した肥満症対策ガイドブックを発行しました

- No.1 の総論編（肥満とは、内臓脂肪とは、異所性脂肪とは）は 2024 年 7 月に発刊しました
- No.2 の薬物治療（食欲とは、抗肥満症薬とは）は 2025 年 7 月に発刊しました
- No.3 の食事編（食習慣とどう取り組むか）は 2026 年 7 月発刊しました





このガイドブックは正会員には無料で配布しておりますが、他に購入希望があれば、一冊 250 円（税抜き）、100 冊単位でご購入いただけます。ご希望の際は当事務局メールアドレス（info@wjomc.com）までお問い合わせください。

② ホームページを公開しております

➢ 2026 年 2 月 3 日にリニューアルして読みやすくなりました



➢ 一般の方向けに、最新の肥満や肥満症に関する研究結果を分かりやすく解説しながらご紹介する「学術ニュース」を 2025 年 5 月 2 日より開始し、2026 年 4 月現在 10 報掲載しております。今後も定期的に 2 報ずつ追加予定です。ぜひご覧ください。



➢ 一般の方向けに、下記の内容について 11～15 分間で各専門家が動画で解説している「e-learning」を掲載しております。2023 年 7 月 1 日に、肥満症総論（病態、概念、診断ほか）、肥満症における行動療法について、肥満症治療（食事療法）、肥満症治療（運動療法）、肥満症に対する薬物療法の計 6 つを掲載し、薬物療法については 2025 年 8 月 20 日に第 2 版を掲載しております。ぜひご覧ください。



③ 世界肥満デー関連市民公開講座

3 月 4 日は世界肥満連合が制定した世界肥満デーです。世界中で増加している肥満や肥満症の認知度を高め、併存疾患や生命予後の改善を目指すことを目的として、世界肥満デーにちなんで一般市民向けに 2023 年から無料の公開講座を毎年開催しています。これまでに下記の日程や場所で開催し、医師、栄養士、運動療法指導士、行政の立場、企業の立場などから肥満や肥満症に関する講演や運動療法の実演、体重や体組成の測定などを行っています。多くは地域の行政と共催しています。

- 2023/3/4　宮崎県宮崎市
- 2024/2/10　宮崎県小林市
- 2024/3/2　宮崎県西都市、福岡県北九州市
- 2024/3/3　宮崎県宮崎市
- 2025/2/7　宮崎県都城市
- 2026/3/1　宮崎県延岡市
- 2026/3/7　福岡県福岡市
- 2026/3/4　名古屋市立大学病院
- 2027 年 3 月 宮崎県日南市、および宮崎市で予定

3. 次年度計画

次年度は以下の項目について活動を進めていく予定です。

① 肥満症対策ガイドブック（食事療法・応用編、運動療法編）の発行と販売
② ホームページへの学術ニュースの定期追加
③ 世界肥満デー関連市民公開講座の実施
④ 会員数の増加を目指す

4. 会の概要

2026 年 5 月 31 日現在、個人会員として（正会員 45 名、準会員 212 名)、企業・施設会員（一般協賛会員 1、地域支援会員 3 、賛助会員 A 5 ）

役員一覧

（設立時役員）

坂田 利家	大分大学医学部内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座 名誉教授
中里 雅光	大阪大学 特任教授
梅田 文夫	行橋中央病院 院長
柳瀬 敏彦	牟田病院 院長
荒木 栄一	菊池郡市医師会立病院 顧問
福井 道明	大阪鉄道病院 院長
山﨑 浩則	佐世保市立総合医療センター糖尿病・内分泌内科 科長
加隈 哲也	大分大学医学部基盤看護学講座 健康看護学 教授
上野 浩晶	宮崎大学医学部内科学講座 血液糖尿病内分泌内科学分野 講師

檜垣 靖樹　　福岡大学スポーツ科学部 教授
澤田 浩武　　宮崎大学医学部看護学科 生活・基盤看護科学講座 教授

(県(支部)担当役員)
安西 慶三　　高木病院 副院長、糖尿病内分泌肝疾患センター長
西尾 善彦　　国立病院機構 鹿児島医療センター 院長
小林 邦久　　福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科 教授
岡田 洋右　　産業医科大学病院 臨床研究推進センター センター長
田尻 祐司　　福岡輝栄会病院 糖尿病センター センター長
野村 政壽　　久留米大学医学部内分泌代謝内科部門 教授
和田　淳　　岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
　　腎・免疫・内分泌代謝内科学 教授
山﨑 浩則　　佐世保市立総合医療センター糖尿病・内分泌内科 科長
上野 浩晶　　宮崎大学医学部内科学講座 血液糖尿病内分泌内科学分野 講師

組織図

